

修正動議

しかし、こと「内達」問題に関しては、動労が責任組合であることはまぎれもない事実であり、この「内達交渉」が、動労主導で行なわれたのは当然であります。それは動労主導で集約したという厳正な事実のうえにたって、「内達」＝動力車乗務員勤務、労働条件など全般にわたって発生するすべての問題の責任も同時に勤労が担わなければならぬというのです。

今回、われわれが集約した内容は国鉄当局が提案した「内達改正案」にたいし、前述したとおり、動労主張を反映させましたが、しかし現行「内達」に比して、大幅な労働条件の改悪であり、労働強化であることも紛れもない事実です。そして、「六〇・三ダイヤ改正」以降、全国の動力車乗務員がこの「改訂内達」による労働条件のなかで働くことになります。われわれは「六〇・三ダイヤ改正」以降の動力車乗務員の勤務及び労働条件について、動労主導で集約した責任において真正面からうけとめていかなければなりません。

現情勢下において、政府・国鉄当局は「六〇・三ダイヤ改正」において「改訂内達」の導入だけで八〇〇〇名をこえる要員合理化を公言しており、われわれが「内達改正」にあたり、国鉄当局に認めさせ集約した内容にまで土足で踏みこんでくる可能性が大きくなることを直視しておかなければなりません。したがって「内達改正」のたたかいについての真の総括は「六〇・三ダイヤ改正」において、誠実にたしていかなければなりません。

「六〇・三ダイヤ改正」における取り組みを強化しなければ、動力車乗務員の「職場と仕事と生活を守る」ことは不可能であります。われわれは全組織をあげて、動労主導で集約した責任を「六〇・三ダイヤ改正」において、誠実にたしていかなければなりません。

# 第40回全国大会開幕式

日刊 動労千葉

84.7.31

No. 1704

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
(鉄電)二九三五)六・(公衆)〇四七二(22)七二〇七

## 「労資協調・企業防衛」路線へ純化した動労大会

第40回動労全国大会は、七月十七日から二〇日まで秋田市で開催され、当局の尖兵として一層純化した動労「本部」革マルの反労働者の方針が「確認」されました。

動労「本部」革マルは、この第40回大会の裏切り方針をもつて「再建フォーラム」という名のボス交をテコに、国鉄労働者への敵対をより一層強めてくることは必至です。われわれは、この動労「本部」革マルの裏切りと敵対を許さず、「三本柱」過員」「分割・民営化」等々の攻撃をはね返す闘いに決起していかなければなりません。

三本の修正動議が出される

この全国大会においては、全国の戦闘的組合員を代表する代議員から三本の修正動議が出されました。

「経過（総括）」の部分で、「内達」攻撃に対する動労「本部」革マルの裏切りを糾弾する組合員の気持を弁した動議（左側参照）は、汚らしいヤジの中で「少数否決」されました。提案された修正動議は次のとおりです。

さらに「方針」に対する二本の修正動議も、ウヤムヤのうちに「取り下げ」となりました。

この全国大会においては、全国の戦闘的組合員を代表する代議員から三本の修正動議が出されました。

「経過（総括）」の部分で、「内達」攻撃に対する動労「本部」革マルの裏切りを糾弾する組合員の気持を弁した動議（左側参照）は、汚らしいヤジの中で「少数否決」されました。提案された修正動議は次のとおりです。

さらに「方針」に対する二本の修正動議も、ウヤムヤのうちに「取り下げ」となりました。

動労第40回全国大会の経過の中でも鮮明になつたことは、

第一に、「職場と仕事と生活を守る」と称して「59・2」「内達＝動乗勤」を裏切り、三万人にも及ぶ「過員」を発生させる尖兵として生きてきた動労「本部」革マルが、より一層反動的に純化したこと。

第二に、動労の全組合員がこの反動方針によって「再建フォーラム」などによる国鉄当局と動労「本部」革マルの野合に、結果的には動員されることです。

今、動労の全組合員が「首切りは許さない」と言いながら、「退職強要、願休、出向」の「三本柱」の攻撃に対して「絶対反対で闘う」を言わない動労「本部」革マルのこの裏切り方針に追随するのか、それともこれと決然と闘うのかが問われています。

「日刊動労千葉」は、何回かにわたり、動労方針の具体的問題点を明らかにしていきますが、われわれはこの間の「国鉄と三里塚を基軸に反動・中曾根内閣と対決する」方針の正義性と、「3・25三里塚」をはじめとする闘いの前進に確信をもち、自らが原則的に闘うことをおして、全国の動労組合員、全国鉄労働者の決起を呼びかけていかねばなりません。

↑(3)地本と3分科にわたる戦闘的・良心的代議  
員から提出された「総括」の修正動議(全文)